

# ☆放課後子ども教室☆

お盆を過ぎると、日差しは暖かくても吹き抜ける風には秋の気配を感じます。先日、赤とんぼが飛んでいるのを見かけました。季節はゆっくりとですが確実にめぐりものなのだと実感します。

今年の放課後子ども教室・夏休み特別教室では、川や海といった夏ならではの自然体験プログラムと、地域の方々に協力を得て開催しているあつまっ子カフェプログラム、計3日間の活動を行いました。

川遊びプログラムでは、1～3年生28名が参加。元気いっぱいの低学年チームと一緒に、今年もむかわ町穂別地区にある川遊びスポットへお出かけです。現地到着後、お昼ご飯を食べ、安全に川遊びが楽しめるようヘルメットやライフジャケットなどの装備を整えました。あいにくの空模様でしたが気温は高く、水量もちょうど良い絶好の川遊び日和です。川をプカプカと浮いて流れるボディラフティングや、川辺での生き物探し、ボート遊びに飛び込み大会など、思い思いに楽しんでいる様子がうかがえました。海遊びプログラムでは浜厚真海岸へ。4～6年生10名と参加者は少なかったものの、しょうすうせいえい少数精鋭で寄せる波に立ち向かって大いに遊び、午後からは海で拾った貝殻や流木を使ってクラフト（工作）体験を行いました。波がない状態だと大人のひざ下10センチ程度の水量ですが、ひとたび波立つとゆうに腰ぐらいの高さまで水しぶきが上がります。子どもたちは波に向かってジャンプをして遊ぶだけでも大興奮。スタッフが用意したサーフボードに乗って、波乗り挑戦する子もいました。「海遊びに行くのは今日が初めて！」と言っていた子も、大きな波に怖がることなく、友だちと一緒に夢中になって遊んでいる姿が印象的でした。



毎年7月末に開催されている『ともいきの里夏祭り』会場にて、子どもたちが運営するお店・あつまっ子カフェが今年もオープン。厚真町社会福祉協議会、厚真町商工会青年部をはじめ、地域の方々のご協力を得て、今年で4年目の取り組みとなりました。4年連続で参加しているベテランさんから、初めて参加する子も含め、今年は21人の子どもたちが集まりました。お店作りに必要なノウハウを学び、接客はもちろん、会場設営や商品の仕入れ、看板やポップづくり、会計確認まで子どもたちが主体となって運営します。大人はあくまでもサポーターとして口は出しても手は出さず、子どもたちのことを信じて見守ります。子どもたちは大きな声でお客さんを呼び込んだり、丁寧に商品の説明をしたりと自分の役割に一生懸命向き合っていました。米粉スイーツのお店・稲葉から仕入れた米粉パン、土居ハスカップ農園特製シロップを使ったハスカップソーダ、海沼農園の朝採りブロッコリーを販売し、約2時間で全ての商品売り切ることができました。売り上げから諸経費を差し引き、ひとり400円のお給料を手にした子どもたち。サポートして下さった商工会青年部の金谷部長から「みんなが一生懸命稼いだお金です。夏の良い思い出になるような使い方をしてけると、応援した私たちもうれしいです」という言葉をかけてもらいました。地域の方々に支えられてできているこの活動が、子どもたちの心の根っこを支える原体験として残ってくれることを願います。

